慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	誰のための海外進出か：良い銀行になるために
Sub Title	
Author	阪本, 善彦(Sakamoto, Yoshihiko) 清水, 勝彦(Shimizu, Katsuhiko)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2015
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2015年度経営学 第3049号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002015-3049

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（　　2015　年度）

論文題名

誰のための海外進出か
−良い銀行になるために−

主　査	清水　勝彦　教授
副　査	太田　康広　教授
副　査	齋藤　卓爾　准教授
副　査	岩本　隆　特任教授

学籍番号	８１４３０５１６	氏　名	阪本　善彦

論 文 要 旨

所属ゼミ	清水勝彦研究会	学籍番号	81430516	氏名	阪本　善彦

（論文題名）

誰のための海外進出か
–良い銀行になるために–

（内容の要旨）

日本企業にとって海外進出、グローバル化は避けて通ることが出来ない。メガバンク3行にとってもグローバル化は成長戦略の柱である。

本稿では「良い銀行」を現状よりも経済性、社会性ともに改善された銀行と定義した上で、グローバル化への取り組みを通じて各メガバンクは「良い銀行」を目指しているという前提に立っている。

しかし金融機関の暴走を発端とする経済危機を経てグローバル化を進める金融機関へのガバナンス強化の圧力は強まる一方である。Citi やドイツ銀行など従前のグローバル金融機関が海外業務を縮小する中で、果たしてメガバンクが掲げるグローバル化という方針は合理的なのであろうか。

本研究ではまず客観的な測定可能性が高い経済性とグローバル化の関係に着目し、銀行のグローバル化に関するアナウンスと株価の関係性を調査・分析した。結果としては、銀行のグローバル化へのアナウンスは株価に影響を与えておらず、グローバル化への対応は株主にとって「良い銀行」になるための取り組みとなっていない可能性があることが判明した（銀行のグローバル化に関するアナウンスは株価に影響を与えていない)。

メガバンクがグローバル化への取り組みを通じて「良い銀行」になっていくためには少なくとも株主から正の評価を受ける必要がある。本稿後半では銀行が現在海外事業で直面している課題と今後取り組むべき方向性に言及する中で、地域軸で見た銀行の経営形態を「I 型」、「T 型」、「π型」に分類する。そして国内市場が縮小し海外進出が不可避である日本のメガバンクは各地域に根ざしたグローカルを志向し緩やかな横の連携を目指す「π型」でのグローバル化を目指していくべきであるというのが本稿の結論である。